

高等部Ⅱ類エコグリーン班 作業学習指導案

日 時 ○○月○○日 (○) ○校時

場 所 A棟 北ホール

指導者 T1○○ ○○ 他6名

1 単元名 花いっぱいプロジェクト ～地域の方へのプレゼント&校内販売～

2 単元の目標 〔知〕：知識及び技能 〔思〕：思考力・判断力・表現力等 〔学〕：学びに向かう力・人間性等

- (1) 花の育苗、販売、プレゼントまでの活動の流れと、その活動の中での自分の役割を知る。〔知〕
- (2) 「自分で」、「より早く」、「より正確に」作業するためにどうするかを考え、作業しやすい方法を試す。〔思〕
- (3) 花の販売・プレゼントを目指した活動を通して、働く楽しさを味わいながら、自分でできることを考えて主体的に行おうとする。〔学〕

3 生徒と単元

(1) 生徒について

高等部エコグリーン班には、男子6名、女子3名、計9名の生徒が所属している。卒業後の進路は1名が福祉的就労、8名が生活介護を希望している。上肢の麻痺等により細かな動きに制約がある生徒が多いものの、作業工程や補助具、環境等の工夫により、自分の力でできることが少しずつ増えてきている。作業学習に対する意欲が高く、働きたい、作業したいという思いが十分にある生徒達である。体調面への配慮から、作業時間、作業量を調節しながら作業学習に取り組んでいる生徒もいる。コミュニケーション面については、質問されたことに対して自分の考えをしっかりと話せるが、状況に合わせた話し方に課題があったり、困ったことがあったときに、自分から支援を依頼できずに遠慮したりすることがある。繰り返し経験し、見通しをもった活動に自信をもって取り組めるものの、初めてのことで、いつもと違う状況に消極的になってしまうことが多い。様々なことに興味をもって新たなことに挑戦したり、やりたいことを実現するための方法を知ったりすることが、生徒達のより豊かな卒業後の社会生活に繋がっていくと考える。これまでの経験を基に自分で考えて行動したり、必要に応じて周囲の人に依頼したりする力を作業学習を通して育くんでいきたい。

(2) 単元について

エコグリーン班では、花の苗を育てる園芸作業と、縫製班で製作している香り袋に使用するラベンダーのつぼみ取り作業を行っている。本作業班の学習内容は、生徒達の「花を育てたい」「プレゼントしたい」「販売したい」という声からスタートした学習である。どのような花を育てるか、種をまく時期はいつか、育てた花をどうするかと、生徒と教師が一緒になって考えて活動計画を作成した。自分たちで計画を立てることで、播種から販売、プレゼントまでの全体の流れを理解でき、「花を育てる」という活動の中での自分の役割が明確になる。また、自分達で出来ないことについては、必要に応じて他者の力を借りることの大切さを学ぶことができると考える。

園芸作業は、各家庭で行われていたり、実習先の施設で取り組まれていたりするように、生徒にとって身近な作業である。手指の巧緻性を必要とする播種などの工程から、ポットへの土入れなど粗大な動きでできる工程まで様々あり、生徒の実態や身につけたい力に応じた適切な学習活動を設定できる。また、植物の生長を日々観察でき、手を掛けた分だけきれいに、元気に花が育つため、「できた」と達成感を得やすい作業だと考える。

やりたいことを実現したり、他者に喜ばれたりする経験を積み重ねながら、「働く楽しさ」を十分に味わい、「もっとやりたい」と主体的に行動しようとする姿を引き出したいと考え本単元を設定した。

(3) 指導について

本作業班では、生徒の教育的ニーズに基づき、「主体性」「関わり」「働く楽しさ」に重点に置いた指導を行う。

【主体性を育むために】

- ・育てる花の品種、播種、ポットへの植え替え時期、やりたい活動などを、生徒と一緒に計画する活動を単元の初めに行い、作成した計画表を掲示する
- ・一時間ごとに目標をもって作業に臨めるよう、授業が始まる前に「個別の目標」を自分で決める。また、決めた目標に対する自己評価を◎、○、△で作業後に行い、本時の頑張りとは反省点について振り返る。
- ・作業全体への見通しと自分の仕事に対する責任感を高められるよう、生徒全員が一連の工程を担当し、その後、生徒の意見を反映しながら作業工程を分担して行う。
- ・生徒の身体の動きや物の見え方に応じた補助具を用意したり、集中して作業に取り組めるように作業場所の配置を工夫したりする。

【関わる力を育むために】

- ・大きな声で話すことの意識付けとして、授業の始まりに「あいさつ」の練習を行う。
- ・作業工程のつながりを意識できるよう、材料を生徒同士で受け渡しをする場面を設定する。
- ・教師は「一緒に作業する人」という立場で、生徒の近くで「働く」見本を示す。

【働く楽しさを味わえるようにするために】

- ・自分の力で作業するための方法を考える機会を設定するために、言葉がけの支援を減らしたり、過剰な補助具を減らしたりする。
- ・生徒が頑張っていること、やろうとしていることを認め、即時評価し、伝える。
- ・ゴールを「販売・プレゼント」と分かりやすく示し、全員が同じ目標に向かって進められるようにする。

4 指導計画（総時数67時間）

小単元名 ・学習内容	小単元の目標	時数	取り扱う教科				
			理	国	数	情	職
1 活動計画を立てよう ～花いっぱいプロジェクト始 動～	・今後の活動計画を立て、花の育苗、販 売、プレゼントまでの活動の流れと、そ の活動の中での自分の役割を知る。	2	○	○	○	○	○
2 園芸作業 「パンジー・ビオラ」 ・播種 ・育苗 ・ポット上げ サシェ作り ・つぼみ取り、計量 ・シュレッダー・ミキサー	・作業に必要な道具を覚え、自分で準備した り、準備してほしい物を分かりやすく教 師に伝えたりする。 ・担当する工程の作業の進め方が分かり、で きることに自分から取り組んだり、難し いことにも「どうしたらできるか」を考え ながら取り組んだりする。 ・効率よい作業の進め方があることを知る。	55 本時 30/55	○	○	○		○
3 地域の方にプレゼントしよ う ・チラシ・看板作り ・アンケートの作成	・地域の方に喜んでもらえるように、どんな 工夫ができるか考える。 ・相手に喜ばれる経験を通して、やりがいや 達成感を味わう。	4		○		○	
4 校内販売をしよう ・チラシ作り	・自分達で育てた花の苗の価値や、商品とし てどのような物が求められているのか知 る。	4		○	○	○	○
5 花いっぱいプロジェクトの 振り返りと今後の活動に向け て	・これまでの取り組みを振り返り、今後やっ てみたいことを企画する。	2	○			○	○

5 本時の計画（総時数67時中の32時）

（1）本時の目標

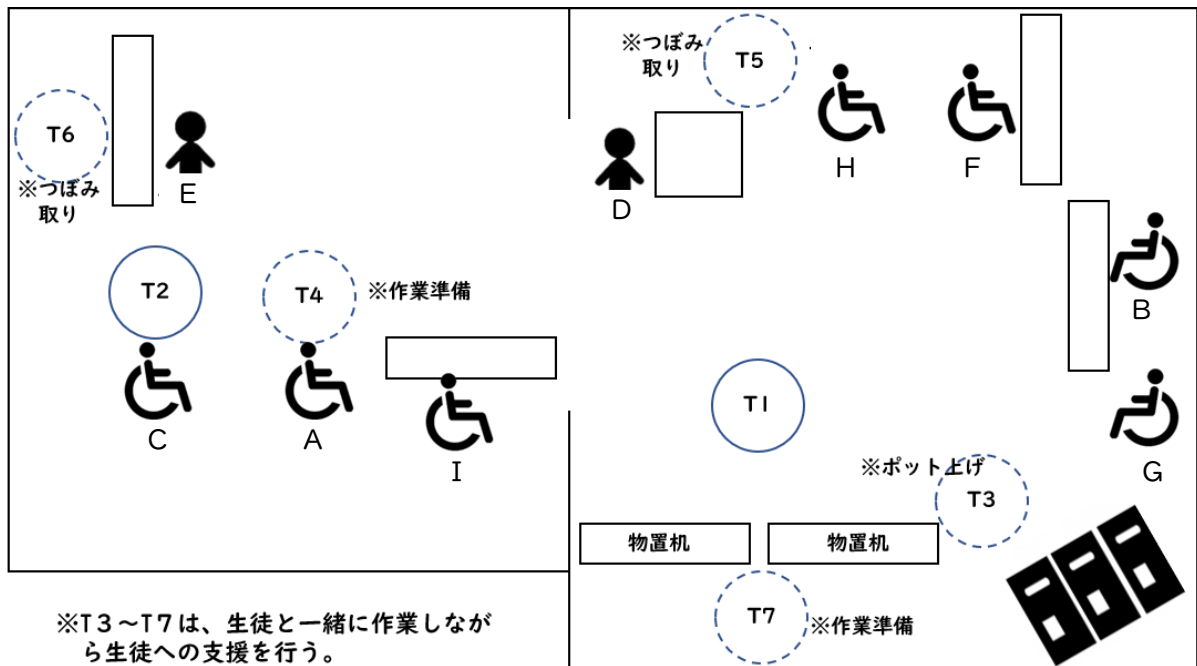
- ・「自分で」「より早く」「より正確に」作業をするための方法を考え、考えたことを教師に伝えたり、自分から試そうとしたりする。

（2）個別の実態・目標・手立て

生徒名	本單元における実態	本時の目標	手立て MSゴシック：自立活動シートより
A (1年)	【つぼみ取り】道具を使った り、軍手をはめたりして、やり やすい方法を探しながら取り 組んできた。滑り止めシートに 直接指でこする方法がやりや すいことに気付いた。丁寧に作 業することに意識が向いてい るため、時間あたりの作業量は まだ意識できていない。	・どれぐらいの本数をまとめ てやるのが良いのかを試し ながら作業し、効率のよい 方法を見つけたり、考えた ことを言葉で説明したりす る。	・自分が行った作業量が分か るように、取ったつぼみの 重さを量る。 ・1本、3本、5本にまとめ られたラベンダーのつぼみ 取りを行った後に、出来高 と作業のやりやすさについ て質問する。(T4)
B (1年)	【ポッド上げ】日常生活の中 でよく使われる言葉を理解し 簡単な指示を聞いて行動に移 すことができる。活動への見 通しをもつことで、直接的な 言葉掛けがなくても1～2個 の動作をするようになってき た。	・苗植えポットに土を入れる ことがわかり、一つのポッ トにスコップで土を3回以 上入れる。	・土が入ったスコップを皿の 上に3つ並べておく。 ・手が止まっている時には、 名前を呼んだり、スコップ をトントンと指差したりす る。(T3)
C (2年)	【つぼみ取り】つぼみ取りを することが分かって、時間い っぱい活動に取り組むことが できる。上肢の緊張が強く、 腕の動きに制約がある。	・作業しやすく、多くのつぼ みが取れるやり方が分かっ て、繰り返し取り組む。	・ブラシの持ち方や手の動か し方を一緒に試した後、ど ちらの方法が良かったかを 質問する。(T2)
D (2年)	【計量・袋詰め】考えたこと や感じたことを自分の言葉で 伝えるようになってきた。手 指の細かな動きが伴う活動は 難しいが、自分でやってみた いと挑戦しようとする姿が多 く見られる。	・ラベンダーが袋からこぼれ ないようにしながら、袋の 上部を折り返す。	・折り返す部分が目立つよう に、マスキングテープで色 を付ける。 ・袋の操作がしやすくなるよ うに、持ち手部分にクリッ プを付ける。(T6)
E (3年)	【シュレッダー、ミキサー】 周囲の様子が気になって手元 に集中できないことがある が、ミキサーの活動を楽しみ に、目の前の活動に続けて取 り組めるようになってきた。	・教師から渡されたラベンダ ーの茎を、シュレッダーに 入れて細かくする作業に5 回続けて取り組む。	・シュレッダーをかける度に 数字が書かれた表にシール を1枚ずつ貼り、5個シール が貯まったら次の工程のミ キサーの作業ができること を伝える。(T7)
F (3年)	【ポッド上げ】一度覚えたや り方を正すことに抵抗がある ものの、理由が分かって納得	・全体目標（72個のポット） を達成するために必要な自 分の作業量を考え、目標達	・前回の作業量を確認し、今 日の目標を教師と一緒に相 談して決める。(T1)

	できることで様々なやり方で作業できる。作業の進め方に見通しをもち、自信をもつことで、素早く作業できる。	成を目指して素早く作業に取り組む。	・自信をもって作業を行えるよう、作業の進め方や基準を事前に確認する。(T1)
G (3年)	【ポッド上げ】体の緊張が強いが、自分の体の動きを理解して作業に取り組んでいる。土入れの活動では、中指の使い方によって、作業が上手く進まないことがある。困ったことがあったときに周囲の人に遠慮し、依頼できずにいたり、自分で何とかしようと時間を掛けすぎてしまったりすることがある。	・スコップの持ち方や作業時の道具の配置に気をつけて活動する。	・道具の持ち方や置き場所によって、作業のしやすさが変わることを作業前に伝える。本人から発信があるまで、道具の配置の変更をせずに待つ。 (T3)
H (3年)	【ポッド上げ】作業の仕方が決まっていたり、目安となる基準があったりすることで自信をもって作業できる。	・目印の線より上になるまで土を入れる。	・目立つ色のマスキングテープで目印の線を付け、基準を分かりやすく示す。(T6)
I (3年)	【つぼみ取り】任せられた活動に責任をもって取り組むことができる。周囲の様子を見て行動する力が育ってきていて、必要に応じて友達にも声を掛けながら取り組んでいる。	・納期に間に合うように優先順位を考えて作業する。 納期 ○○月○○日 納品物 つぼみ 100g	・各工程の進み具合を一目で確認できるよう、テーブルに作業中の材料を並べておく。 ・仕事の順番と大まかな作業時間を確認し、ホワイトボードに記入する。

(3) 配置図



(4) 学習過程

時間 (分)	学 習 活 動	指導上の留意点 *MSゴシック：自立活動シートより	準備物
授業前	個人目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・教室移動が終わった生徒から、今日頑張ることとその理由について質問する。前回の様子を一緒に振り返り、個人目標の妥当性を生徒と一緒に考える。 ・自分たちで作業を進めることの意識を高められるよう、班長（F）を中心に始まりの会を行う。 ・Dが大きな声で出欠確認できるよう、「大きな声で、元気よく」と伝える。 	ホワイトボード
9:55 (10)	1 始まりの会 ・出欠確認 ・「あいさつ」の練習 ・今日の仕事の確認		個人目標カード
10:05 (40)	2 作業 ・道具の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を短時間で準備できるよう、使用する道具をまとめた籠を個人ごとに用意する。籠を取りに行くことが難しい生徒の準備は、生徒の依頼の言葉を待ってから教師が行う。 ・教師も一緒に目標の数量を目指して作業し、働き方の見本を示す。 ・一人でできずに困っている時には、「どこが難しいか」「何か工夫できることはないか」「どこまでを頑張り、どこから手伝ってもらうか」を考えるように言葉掛けする。 ・生徒が自分や友達の頑張りに気づき、その後の作業に対する意欲を高められるよう、生徒が頑張ろうとしているところ、工夫したところを本人にその場で伝えるとともに、終わりの会で紹介する。 	ポット スコップ 新聞紙 滑り止めシート 土入れ
休憩 10:45 (15)	・苗のポット上げ 目標個数（72個） （B）（G） （F）（H）		ミキサー シュレッダー 籠
11:00 (25)	・ラベンダーのつぼみ取り 次回納期（10月22日 100グラム） （A）（C） （D）（E） （I）	<p>頑張ったこと、工夫できたことを紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間で自分の作業を振り返り自己評価できるよう、ホワイトボードに◎、○、△の磁石を選んで貼る。理由を聞き、考えたことを言葉で表せるようにする。 ・本時の作業の様子から、次時頑張りたいことを生徒と一緒に考える。 	磁石（◎ ○、△）
11:25 (10)	3 作業終了・片付け		
11:35 (10)	4 終わりの会		

(5) 評価の観点

<生徒> *個別の目標を基に評価する。

<教師>自分で考えたり、工夫したりしながら作業しようとする気持ちを育むための支援は、適切であったか。